

**新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
“コロナ禍から新天地を迎えた意思決定”**

— 風土改革と新製品開発 —
(株) ジョンキエルコンサルティング 落合以臣

**Front-end loading in new product development
“Decision-making that welcomed a new world after the COVID-19 disaster”**
- Corporate Culture Reform and New Product Development -
Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.**Keywords**

コロナ禍・世界経済・G7・集団・意思決定・株価操作・テーマ・新天地

Covid-19/global economy/G7/ collective/stock manipulation/decision making /new theme/new paradise

株価と意思決定

先進国のコロナ対策も一段落し、我が国においては諸外国からたくさんの観光客を迎え、各地での賑わいを取り戻しているように感じます。コロナ禍で湿った市場は、さあこれから前向きに進むぞといったところでしょうか。いずれにしても、世界経済の復活の兆しが見え始めてきたと言っても過言ではないでしょう。特に、G7 の首脳会議で討論された世界経済の融和は、世界経済の発展をさらに誘引するものと思われま。その融和という意味は、決して馴れ合いもたれあいという関係ではなく、それぞれの国が築いてきた財産をもって世界に貢献するということでしょう。いわばコロナ禍がもたらした不安・破壊・損失などの状況が、自主独立の考えを強く抱くことになったのではないかと思います。

こうした過酷な環境を経て、あらゆる場面における意思決定もコロナ禍の前後で、大きく様変わりしたと言えます。もっと単刀直入に言えば、集団的な意思決定、他力本願的な意思決定では、企業であれば存続して行くことが難しいということでしょうか。しかしながら、世の中というものは面白いもので、せっかく前向きに進む状況に至り、また意思決定も従来の方法から抜出すことができると思った矢先に、株価が一時 30,000 円を超えるという事態になりました。株価が上がるということは、企業においても国力においても大変喜ばしいことではありますが、一見しますとまずはこのままで良いという安心感を与え、その安心感が元の本阿弥になってしまうのではないかと思います。ある意味では、意思を強く持って決定するということは、常に自身との闘いであると、大先輩の方々が言われていたことを思い出します。

コロナ禍から新天地を迎えた意思決定

では、コロナ禍が終わろうとしている今、どのような意思決定をすれば、輝かしい未来に向かって進むことができるのでしょうか。それは、ひとえに株価操作に翻弄されず、進むべきテーマを持つことであると言っても過言ではないでしょう。テーマという意味は、いろいろな場面において言えることであって、製品・商品開発では新製品・新商品となるテーマ、マネジメント的には分析データと直感を融合した考え方であると言えます。少し前の LinkedIn に掲載されました話題ですが、ある企業で新たな時代に向けて、斬新なアイデア、テーマなど思ったことを提案してほしいということが、社長が社内発信したそうです。さっそく、社員が提案したそうですが、社長から「前例が無いので何とも言えん」という回答であったそうです。その企業は、今期の 3 月期決算で大きな赤字を抱え、持っている株を売却して穴埋めをしたということが記事になっていました。

過去を振り返ることは、決して夢がないと言えます。私自身もいつもそのように考え、「振り向く振り向く、後ろには夢がない」という言葉を基本に置いています。しかしながら、今まで培ってきた技術、手法、価値などの財産は、必ず基本の上に応用を重ねてきた結果であると言えます。過去の栄光を振り返るのではなく、蓄積した過程を見直すという意思決定もあっていいのではないのでしょうか。少し古い言い方になりますが、バブル経済崩壊後失われた 30 年と言われていています現状を打破して行くことが重要と思います。